

実践力向上研修セレクト型 講義内容

講義群IX 教育分野の実務における基本的課題 【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師1名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点	研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-9-1	教育の現状と動向	I	公認心理師として学校における「教育」という行為についての視点を持つ。スクールカウンセラーなどとして働く公認心理師にとって、「生徒指導」は活動の枠組みとなる。そのため児童生徒を取り巻く、生徒指導上の課題(いじめ、不登校、自殺、児童虐待、ヤングケアラーなど)について、実態、要因、行政の対策について紹介する。またスクールカウンセラーの現状、効果的な活用、今後の在り方について、共有する。そして2022年に改訂された『生徒指導提要』の骨子(積極的な生徒指導、重層的支援構造、チーム学校)について解説する。生徒指導の定義・目的が一人ひとりの子どものウェルビーイングの向上であり、公認心理師(心理支援の総合職)への期待について共有する。	仲村 健二(文部科学省児童生徒課生徒指導室、室長) 石隈 利紀(東京成徳大学、特任教授)	○	38分 35分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-9-2	学校組織とチーム学校の理解	I	公認心理師として働く組織・場所を知り、チーム学校・学校組織における自分の立ち位置の把握や実践の基礎を学習する。教育委員会と学校関係、学校の実務活動の共通言語となる学習指導要領や生徒指導提要の活用方法について解説する。チーム学校における心理教育的援助サービスのシステムを把握し、公認心理師への期待と課題を理解する視点を持つ。そして、教育における公認心理師としてのスクールカウンセラーの職務、基本となる活動、学校で働く時の基本姿勢、教職員との人間関係などについて共有する。さらに期待されている発達支援的な教育相談の取り組みについて紹介する。	山口 豊一(聖徳大学、教授) 石川 悦子(こども教育宝仙大学、教授)	○	42分 43分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-9-3	子どもの問題と心理教育的援助サービスのモデル	I	心理教育的援助をめぐる求められるアセスメントと援助サービスについて、予防の視点も交えてその考え方を学ぶ。はじめに、心理教育的援助の考え方を中心に講義を行う。学校現場で子どもの問題を解決するためには、個に対する的確なアセスメントを行い、生態学的な調査と支援資源の機能化が必要とされる。また、教師や学校・地域関係者と協働しながら、第1次～第3次の支援など、段階的に心理援助を進めていく必要がある。このことを分かりやすく講義する。次に、特別支援の事例を基に課題の提示と解説を行う。特別支援教育の本格実施以降、学校や地域で様々な実践が蓄積されている。ここでは包括的行動支援(PBS)モデルに準拠しながら、学校の実情に応じた課題解決法の検討を行う。	新井 雅(跡見学園女子大学、教授) 大石 幸二(立教大学、教授)	○	34分 49分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-9-4	家庭や地域の問題と心理教育的援助サービス	I	社会のなかでの学校における心理教育的援助サービスを考える。具体的には、虐待、貧困、非行、家族の方が抱える障害の問題、外国につながる場合など支援を要する家庭である。福祉の視点として学校の支援をどう引き出すのか、SSWなどの福祉専門家との連携が鍵となる。事例の背景の理解には、援助要請がしにくい状況の把握がポイントとなる。公認心理師が保護者をどのようにエンパワーできるのか、また、その視点をもとにした教師へのコンサルテーションもポイントになる。子どもの家庭・地域の現実の問題を理解して、公認心理師の援助サービスの在り方を学ぶ。後半は、公認心理師がスクールカウンセラーとして勤務する場面における援助事例をもとに、どのようにアセスメントし、学校の中で心理教育的援助サービスを展開していくのか解説する。虐待への対応、保護者支援についての具体的な視点を紹介する。	野田 正人(立命館大学、名誉教授) 水野 治久(大阪教育大学、教授)	○	36分 37分
		II				
		III				
		IV				
		V				
C-9-5	子ども、学校組織・風土、環境のアセスメント	I	学校では公認心理師はチーム学校の一員としての活動が求められる。支援の際にアセスメントが重要であることは言うまでもないが、チーム学校で求められるアセスメントについて理解する。はじめに、チームによるアセスメントや、チームに役立つアセスメントのあり方や方法について理解する。援助のために信頼関係を基盤に行われ、臨床的な情報と統計的な情報の統合を統合し、生態学的なアセスメントという特徴を持ち、学問的な基盤やエビデンスによって解釈される「賢いアセスメント」(intelligent testing)の考え方について理解する。次に、チーム学校での心理検査(主としてWISC-V、KABC-II)の実施結果(解釈)および報告について考える。	半田 一郎(子育てカウンセリング リソースポート) 小野 純平(法政大学、教授)	○	46分 27分
		II				
		III				
		IV				
		V				

実践力向上研修セレクト型 講義内容

講義群IXつづき 教育分野の実務における基本的課題 【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師1名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点		研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-9-6	教職員へのコンサルテーション・コーディネーション	I		教職員と連携・協働の実践を計画する力を確認し、養う。子ども・教職員や援助に関する情報の共有義務、報告義務と子ども・教職員との守秘義務について学ぶ。まず、教育現場におけるコンサルテーションの意義と目的(児童生徒にかかわる教師へのコンサルテーション・教師が行う保護者へのかかわりへのコンサルテーション)について学ぶ。次に学習面での学校組織や学級へのコンサルテーションと教職員との相互コンサルテーション(コンサルタント、コンサルティ)のタイミングや留意点などに焦点を当てて学ぶ。教職員のニーズと子どものニーズは必ずしも一致しないことへの理解を深める。	谷島 弘仁(文教大学、教授) 小野瀬 雅人(聖徳大学、教授) 小林 朋子(静岡大学、教授)	○	29分 44分 30分
		II					
		III	○				
		IV	○				
		V	○				
C-9-7	チーム学校へのコンサルテーション	I		チーム学校における心理教育的援助サービスの向上について計画し実践し振り返る視点を持つことを目指す。まずは、学校組織・システムレベルでのコンサルテーション、チーム援助のコーディネーションを行うための具体的なスキルの習得を目指す。あわせて、教職員を対象する校内研修の意義や方法について考える。次に、教育委員会や学校が掲げる教育目標を理解することの意味について考え、学校や教育委員会がどのような方針で学校経営をしているのかを視野に入れながら、チーム学校に対するコンサルテーション・コーディネーションを行う意義を理解する。ここでは、理論的な背景とともにSCがチーム学校に関わる事例をもとにして解説する。	家近 早苗(東京福祉大学、教授) 西山 久子(福岡教育大学、教授)	○	30分 30分
		II					
		III	○				
		IV	○				
		V	○				
C-9-8	保護者、地域との連携	I		学校において保護者は子育てにおいて援助を求める当事者であり、また子どもの援助を展開していく際のパートナーである。このような2つの面をもつ保護者との関係構築において大切な視点やその方法を学び、さらに地域資源との連携について学ぶ。当事者としての保護者理解として、はじめに、子育ての困難に保護者の傷つき体験が関係していることについて理解し、保護者への支援が子育ての支援に大きな意味をもつことを考える。次に子どもへの支援へのパートナーとしての保護者という面から、保護者と援助者との相互コンサルテーションにおける、カウンセリングニーズとコンサルテーションニーズの把握の仕方や、保護者が援助のパートナーとなっていくプロセスについて理解する。保護者とのパートナーシップを中核にして、地域の援助資源も参加したネットワーク型援助チームによる連携の実践について学ぶ。	大河原 美以(大河原美以心理療法研究室) 田村 節子(元東京成徳大学、教授 スクールセーフティネット・リサーチセンター、代表理事)	○	40分 50分
		II	○				
		III	○				
		IV					
		V	○				
C-9-9	子ども(当事者)とのパートナーシップ	I		子どもを中心に置きながら、特定の状況の中で生きる子どもを理解し、パートナーシップに基づく取り組みを学ぶ。はじめに、コミュニティ心理学の考え方を基に講義を行う。子どもとのパートナーシップを築くことは、課題解決の出発点となる。子どもの生活現実や心理的体験に寄り添うために、信頼関係を基盤として関与しながら理解を深め、働き掛けを行うための手法について実践を通して分かりやすく講義する。次に、現代社会で子どもが直面する課題について事例を取り上げ、課題の提示と解説を行う。不登校や高校中退、いじめや児童虐待、ヤングケアラー、貧困、外国に繋がりのある子ども、学校事故の影響など、個と集団の関係を踏まえ、コミュニティにおける子どもとのパートナーシップに基づく実践を検討する。	水野 治久(大阪教育大学・教授) 池田 美樹(桜美林大学・准教授) 小栗 貴弘(跡見学園女子大学・准教授)	○	40分 32分 35分
		II	○				
		III	○				
		IV	○				
		V	○				
C-9-10	教育分野における課題と公認心理師の役割	I	○	教育分野における公認心理師は、子どもに最も大きな影響を与える大人(保護者、教職員)を援助しながら、子どもが育つ環境の問題を解消し、環境を改善する役割を持つ。同時に、子どもに直接関わり、子どものパートナーとして、子どもの困りと悩みを理解して、共に問題の解消をめざす役割を持つ。この二重の役割を、教育行政の動向や学校組織の文化の文脈のなかで果たしていく視点と方法を持つことが求められる。現場での実践における今後の課題について考える。	石隈 利紀(東京成徳大学、教授) 家近 早苗(東京福祉大学、教授) 水野 治久(大阪教育大学、教授) 半田 一郎(子育てカウンセリング リソースポート) 大石 幸二(立教大学、教授)	□	101分
		II					
		III					
		IV					
		V	○				